



第32回全国健康福祉祭和歌山大会
ねんりんピック紀の国わかやま2019 優勝

長洲シニア

結成から10年の節目で全国制覇

平成21年8月に結成されたソフトボールチーム「長洲シニア」。これまでに県大会優勝や全国大会出場など、数々の大会で結果を残してきたが、10年を迎えたことし、全国制覇という最高の結果を残した。

北原貢二監督率いる長洲シニアは、現在、60歳から75歳までの27人で活動し、ほとんどが町内者という地元を中心としたチームである。週2回の練習では、グラウンドに活気あふれる声が響き渡り、お互いに切磋琢磨しながら技術を磨いている。

5月15日、16日に熊本市の熊本県民総合運動公園で行われた「第31回熊本県シルバースポーツ交流大会ソフトボール大会（熊本県大会）」で優勝し、3度目のねんりんピック出場を決めた。しかし、それと同時に長洲シニアには悩ましい問題が発生した。ねんりんピックの選手登録は15人。総勢27人で活動する長洲シニアの選手たちにとって、試合に出場するためには、日頃からともに汗を流すチームメイトと競わなければならなかった。

仲間の思いを胸に全国大会へ

11月10日から12日にかけて和歌山県で行われた「第32回全国健康福祉祭和歌山大会 ねんりんピック紀の国わかやま2019」。60歳以上のスポーツと文化の祭典であるこの大会には、全国から67チームが参加。決勝戦では強豪の広島市の広島クラブシニアと対決。2点を先制され追いかける形となった長洲シニアは、最終回の4回裏にヒットや四球などで逆転し劇的なサヨナラ勝ちで初優勝を掴みとった。

「目標はベスト8」と話していた北原監督は、「目標を大きく通り越して優勝という結果になった。ベンチ入りできなかった選手には申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、その選手たちの分まで一生懸命頑張り、目標を果たすという強い気持ちで臨んだ結果が優勝に繋がったと思っています」と感謝の気持ちを話した。

今回、初の全国大会優勝を果たした長洲シニアには、1月12日㊦の成人式で、スポーツ分野で特に功績があった団体として町表彰を予定している。

■印刷／コピー印刷

※この広報紙は地域環境にやさしい植物油性インキを使用しています。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
使用しています。